

# 強制連行と過去責任

— 記憶・責任・未来 —

2014年 1月 25日（土） 13:30～17:45

龍谷大学 深草学舎・紫英館 2階 大会議室

参加費無料

＜第1部＞ 基調講演

『近くて遠い国』の間の対話に向けて  
—日本人の安重根像をめぐって—

牧野 英二 氏（法政大学 文学部教授）



＜第2部＞ シンポジウム

検証 日韓条約は強制連行被害者の  
請求権まで奪ったのか

- 報告
- 1)「韓国の強制連行被害者を巡る判決の状況について」  
中田 光信 氏（日本製鉄元徴用工裁判を支援する会）
  - 2)「改めて問われる西松建設最高裁判決の意義」  
足立 修一 氏（中国人強制連行西松裁判弁護団）
  - 3)「マスコミは日韓条約問題を正しく伝えたか？」  
湯谷 茂樹 氏（毎日新聞編集委員）

パネル討論 コーディネーター 勝村 誠 氏（立命館大学コリア研究センター長）

主催： 龍谷大学社会科学研究所附属・安重根東洋平和研究センター  
《連絡先》事務局：龍谷大学経営学部・重本研究室 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
TEL 075-645-8630 or 8519 Eメール sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp

協力： 「韓国併合」100年市民ネットワーク

## テーマ 「強制連行と過去責任—記憶・責任・未来—」

挨拶 李 洙 任 (安重根東洋平和研究センター長)  
司会 重本 直利 (同センター事務局長)

<第1部> 基調講演 13:30~14:35

「『近くて遠い国』の間の対話に向けて—日本人の安重根像をめぐる—」  
講師 牧野 英二 氏 (法政大学文学部教授)

## ◇講師略歴紹介

専門領域は、近代及び現代哲学、倫理学、美学、感性学、精神史の研究。特にカント、デヒルタイ、ハイデガー等ドイツ哲学や哲学的解釈学、アレントの政治哲学、英米系の判断力論、和辻哲郎の倫理学、三木清の歴史哲学・構想力論、笑いや驚異など感情の感性工学的分析、サステナビリティ・フィロソフィー他。研究業績は、「東洋平和と永遠平和—安重根とイマヌエル・カントの理想—」『法政大学文学部紀要,60』(2010/3)。「安重根の遺墨の意義—安重根と徳富蘆花」『韓国日本近代学会第22回国際学術大会予稿集』(2010/11)。「Ahn Jung-geun and the Japanese:Toward Realization of Peace in the Orient」, in Asian Cultural Studies Reaserch,vol.20. Institute Kyungwon University, Korea (2010/12). 他。学会活動は、日本カント協会会長、日本デヒルタイ協会会長など。

<休憩> 14:35~14:45

<第2部 > シンポジウム 14:45~17:45

「検 証 日韓条約は強制連行被害者の請求権まで奪ったのか」

## ◇報告&amp;パネル討論

中田 光信 氏 (日本製鉄元徴用工裁判を支援する会)

足立 修一 氏 (中国人強制連行西松裁判弁護団)

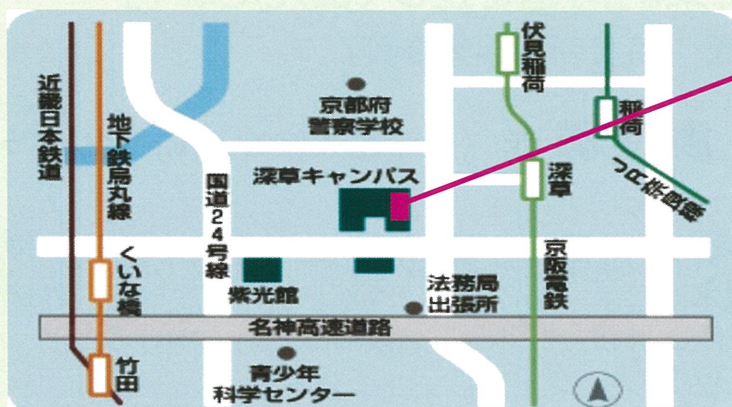
湯谷 茂樹 氏 (毎日新聞編集委員)

コーディネーター 勝村 誠 氏 (立命館大学コリア研究センター長)

## ◇趣旨

強制連行問題で韓国の裁判所で相次ぐ被害者救済を命じる判決や、「竹島=独島」問題、歴史認識問題など、これまでになく日韓関係が悪化をして、改善の糸口さえも見えない状況です。強制連行被害者の請求権について、日本政府やマスコミも口をそろえて日韓条約で全て解決済であると唱えています。韓国の裁判所が被害者の請求権を認めた事が、果たして本当に非常識で「不法」なことなのでしょうか。「日韓」条約は、あくまでも国家間の条約であり、被害者個人の請求権や日本の「植民地支配責任」は問われませんでした。韓国の裁判所の判決は、この問題の解決を正面から取り上げたものであり、本来歓迎されるべき判決であります。本シンポジウムは、「慰安婦」問題や強制連行問題の解決の糸口をさぐると同時に、日本政府と一体になって「日韓条約」解決済論を垂れ流し世論をミスリードしようとするマスコミ報道のありかたもあわせて検証します。全体テーマ「強制連行と過去責任—記憶・責任・未来—」の下、「強制連行被害者の請求権」問題をとり上げます。

会場アクセス



紫英館 2階 大会議室

JR奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約8分  
京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約3分  
京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分

<龍谷大学 深草キャンパス>  
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
代表TEL 075-642-1111 FAX 075-642-8867

※ 京阪「深草」駅に近い東門は工事中です。  
正門など他の門からお入りください。